

テクニカル ダイアリー

抑制トマト

やさいの里営農センター
トマト専門指導員 川島 俊一

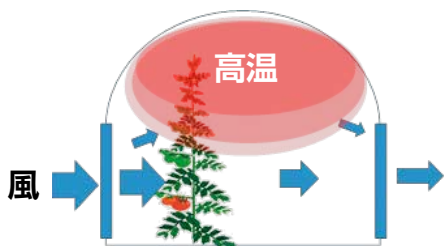


昨年の抑制トマトは、高温の影響で1〜3段は着果不良、4〜6段は割れが多発しました。そのため、出荷のピークを迎える時期に出荷量が激減し、単価が過去に例を見ないほど高騰するなど異常事態となりました。そこで今回は、高温・割れ対策について紹介します。

高温対策

①換気の効率を上げましょう（側窓全開、妻面換気、肩換気、循環扇の使用など）。特にパイプハウスはハウス上部に熱がこもりやすいため、上部の熱が逃げるように工夫すると良いでしょう（図①参照）。

図① 生長点が高温に当たる例

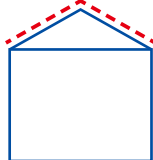
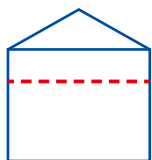


サイド換気のみで天窓がないハウスでは、生長点が高温に当たりやすい

図② 遮熱効果の目安

内部遮光

外部遮光



小 ← 遮熱効果 → 大

※図・写真提供：山武農業事務所



写真① 吹き付けタイプの遮光剤

②遮光ネットの展張や遮光剤を塗布し、ハウス内の温度を下げましょう（写真①）。遮光率は40%前後がお勧めです。定植前から遮光を行い、地温を低下させることで、活着もスムーズになります（図②参照）。

割れ対策

③蒸散により温度を低下させましょう。蒸散を促すためには水分が必要です。少量多回数灌水で初期から水分をこまめに与え、光合成を促し、蒸散量を増やしましょう。ただし、初期から水分を多く与えると、肥料成分を多く吸ってメガネ症状（異常茎）等を引き起こすので、元肥は極力抑え、追肥で生育の調整を行ってください。

割れは、極端な温度・湿度変化により引き起こされます（写真②）。また、高温・乾燥下にあると果皮が固くなり、裂皮を引き起こす要因となります。温度・水分管理を適切に行うことで、裂果を減らすことができます。割れ対策は高温対策とほぼ同様となりますが、空気中の湿度変化を少なくするため、2段階花以降は通路灌水も併用するとよいでしょう。

また、結露は細かいひび割れや裂皮を引き起こします。3段階花以降を目安に、下葉から2〜3枚ずつ葉かきを行い、玉を乾きやすくしましょう。ただし、果実に

直射日光が当たると裂果につながるため、葉かきは収穫玉の下までにしましょう。



写真② 裂果

営農なんでも相談室

皆さまの営農に関するお悩みを、JAの総合事業の力で解決！栽培管理、コスト削減、規模拡大、求人・雇用のことなど、お気軽にご相談ください。

JA山武郡市
営農なんでも相談室
(本所 営農部内)

☎0120-972-860

「営農情報メール」配信中!

作柄情報、病害虫対策、青果物概況、イベント案内など、営農に役立つ最新情報をお届けします。

↓登録はこちらから(登録無料)



JA山武郡市の組合員ならどなたでも登録できます。